

定着確認シート 活用実践例

学校教育課通信

平成28年3月25日（金） 第124号
編集・発行：県南教育事務所 佐藤 晃

2月から3月にかけて、定着確認シート実践協力校である矢祭町立関岡小学校、矢祭町立矢祭中学校をはじめ、学力向上において成果の上がっている学校を訪問して、取組の様子をお聞きしてきました。その中でお聞きした定着確認シートの効果的な活用法を紹介します。次年度の各学校の取組の参考にしていただければと思います。

1 こんな効果を感じています



＜問題に慣れる＞

定期的に定着確認シートを実施することで、問題形式や解き方に慣れてきました。大きな成果です。

＜県学力調査・全国学力学習状況調査の前に＞

全国学力学習状況調査の過去問題を改題した問題も多いので、県学力調査や全国学力学習状況調査の前には重点的に取り組み、既習事項の復習をしました。非常に大きな効果があったと思います。



2 いろいろな取り組み方

＜小分けにして継続的に＞

20分程度で、答え合わせ・解説ができるように、問題を小分けにして出題します。朝の学習の時間を活用して、継続的に取り組むようにしています。



＜小分けにして授業に活用＞

小分けにして、日常の授業の適用問題や課題として活用しやすいようにしています。

＜年間指導計画に位置付けて＞

年間指導計画に位置付けて実施しています。ただ、1単位時間で解いて、答え合わせ・解説までは時間的に難しいときがあります。そんなときは、小分けにして出題するようにしています。



＜活用サイクル＞

定着確認シートは、実施、採点、解説・指導、定期テストへの出題というサイクルで取り組んでいます。こうすることで、生徒が目標を持って定着確認シートに取り組むようになりました。また、教師も定着確認シート問題で求められる力を意識した授業を展開するようになってきました。

実施



採点



解説・指導



定期テストへの出題



＜活用サイクル＞

定着確認シートは2回実施するようにしています。1回目の実施後、結果を分析し、指導してから再度実施します。

1回目実施



採点・解説



2回目実施



採点・個別指導

3 結果を分析して生かす

＜結果から改善点をまとめる＞

定着確認シート実施後、分析表を作成しています。

分析表には、①成果と課題 ②課題解決に向けての対策 ③改善点 を記入します。



4 授業での活用



＜補充指導で弱点克服＞

定着率の低かった問題は、授業で取り上げ、弱点を克服するようにしています。みんなで考えると、だんだんできるようになってきます。

＜適用・発展問題として＞

適用問題として定着確認シートの問題を活用しています。4段階のレベルの問題を色分けして4色問題として取り組んでいます。4問目（4色目）は、発展的な問題として定着確認シートの問題を活用するようにしています。



5 担当者を決めて、使いやすく

＜印刷・入力は担当者を決めて＞

学級担任、教科担任がダウンロードして印刷、実施するには、時間的に厳しいのが現状です。そこで、学校内で印刷係を決め、印刷したものを渡すことで、学級担任・教科担任は活用しやすくなります。また、データ入力も係を決めて入力し、結果を印刷して学級担任・教科担任に配付しています。



6 過去問題の活用



＜既習事項の復習、弱点補強として＞

既習事項を忘れないように、前学年の問題にも取り組んでいます。基礎的・基本的な内容が身に付いているか分析し、陥没点を克服しています。

＜過去問題をファイリング＞

本年度の問題は、各教科の単元の進度と一致しない場合があります。そこで、過去の問題をファイリングしておき、活用するようにしています。印刷室に保管し、どの教員も使えるようにしています。



7 家庭学習での活用

＜解答例の作成＞

自分の力だけでは解けない子もいます。そこで、解答例を作って配付し、家庭学習で解答例を参考にしながら学習できるように工夫しています。

